



速報版

発行所 国 鉄 労 組
盛 岡 地 方 本 部
発行 者 沢 田 光 広
編 集 者 横 内 俊 博

2021年
1月29日

第131回拡大地方委員会

日時 2021年2月20日(土)
13時～(15時30分終了予定)
場所 リリオ(盛岡市)

1/11盛岡・1/17青森

コロナ禍の中、行動が制限されるが 職場の小さな取り組みから成果を

Ⅱ両支部で地区協・分会代表者会議Ⅱ

盛岡・青森両支部は「地区協・分会代表者会議」を開催し、当面する取り組みについて意思統一を図った。会議には各支部からの提起のほか、地方本部からJR会社の現状や国労を取り巻く現状、2021春闘情勢と課題などの報告後、2021年度新規採用者対策について提起をし、機関代表者から組織拡大の取り組みや職場で抱える問題点について全体で意見交換が行われた。

地方本部は4月5日から「全分会オルグ」を取り組むこととしており、両支部より提起された具体的行動と新規採用者対策の取り組みについて検証し、情報を共有化することも確認した。なお、両支部とも毎年恒例の「旗開き」は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。

組織拡大・新採対策など意思統一

盛岡支部は1月11日に盛岡市・国労会館で開催し18人が出席。地方本部からは沢田光広執行委員長、菊池要悦書記長、及川孝執行委員が参加した。

佐々木研司支部執行委員長が、「新型コロナ



〈両支部会議とも十分にコロナ対策を行い開催した(写真上盛岡・同下青森)〉

ナの影響により盛岡支部の運動も自粛を余儀なくされた。職場に運動を残すことが大事。会議を共有し明日から一歩前に踏み出す運動を」と座長就任の挨拶を行った。

地方本部の沢田執行委員長の挨拶後、及川執行委員がJR会社と国労組織の現状を含めた情勢を報告し、「2021年度新規採用者対策」について提起した。その後、盛岡支部



の菅原高明書記長が組織拡大についての支部提起を行い全体討論へ。

出席者からは、「配属された新採と交流会を開催。労働組合の必要性は感じてはいる」「新採は1月から人工扱いとなるが、2年目社員も個人的判断でエラーを起こしている状況」「組織拡大には組合の必要性を訴えるものが欲しい」などの発言が出された。全体討論を受け菅原書記長が、「職場に軸足を置き、できることを継続的にこの一年間取り組んでいこう」とのまとめを確認し終了した。

青森支部は1月17日に青森市・労働福祉会館で開催し22人が出席。地方本部からは佐々木政志執行委員長(青森支部書記次長兼務)、菊池書記長、及川執行委員が参加した。

阿部一久支部執行委員長は、「菅政権の経済優先の施策は、感染症拡大を生む結果となった。今年の衆議院選挙は推薦議員の当選に向け奮闘しよう」とし、組織拡大については「諦めるのではなく、各職場で何が出来るのかを確認し一歩前進させる会議にしたい」と座長就任の挨拶を行った。

地方本部からは菊池書記長が挨拶し、及川執行委員の情勢報告と新採対策の提起後、佐々木書記次長が組織強化・拡大や2021春闘について提起した。

全体討論では、「新採と接触はできたが、その後のつながりが課題」「新採配属日に年休で対応してきたが昨年はできず。分会独自の採用ポスターを作成し掲示」「地域分会移行前に、各分会のしつかりとした意思統一も必要」などの発言が出された。阿部委員長が「コロナ禍であるが、各職場でできる取り組みを全組合員で起こしていこう」とまとめ終了した。

行動が制限されている中、結果に結び付けた他地本の取り組みに学び合い組織拡大に向け取り組みを強めたい。「感染しない・させない」を基本に、職場での小さな取り組みから大きな成果を掴んでいこう。

会社施策の問題点など議論 改善・教育の取り組み確認

交渉委員・職協代表・支部役員会議

地方本部は昨年12月19日、国労会館4階会議室に於いて第1回「地方本部交渉委員・職協代表者・支部役員合同会議」を開催し、19人の出席の下、当面する会社施策に対する取り組み、組織強化・拡大に向けた取り組みについて意思統一を図った。

はじめに、2019年12月26日の東大館駅

無人化説明以降一年間の会社施策と昨年3月19日の「保線部門におけるメンテナンス最適化実施後の問題に関する要求」に関する交渉について菊池要悦業務部長が報告し、全体で確認した。

議題では、①2020年度冬期対策②2021年3月ダイヤ改正③施策の見直し等で盛岡保全センターのエリア拡大」「タッチでGO」が新青森駅まで拡大となるが、教育不十分」等の課題が報告された。また、電気関係では昨年5月に在・幹分離となったが、業務のあり方について多くの指摘が

報告された。実態について会社窓口を通じて改善を求めると同時に、新幹線統括本部に関わる事象については東日本本部へつなげることを確認した。

組織強化・拡大では、「組合アレルギイはないが」との率直な思いや、「東北ロジもJR貨物同様の人事制度導入」「P社プロパー社員と出向組員との交流が課題」等の現状が報告された。企業にとり最大の損失は「人を失う」こと。若手社員、再雇用社員が安心して働き続けられる職場を創っていくためにも、組織拡大に向け共に奮闘することを全体で確認し会議は終了した。